

糖尿病ワンポイントレッスン4

2003年12月 by D.M.T. (北陸病院糖尿病チーム) Saruya

糖尿病性神経障害について

糖尿病性神経障害は、糖尿病の三大合併症のひとつで全身に多彩な症状を呈し、合併症のなかでも最も早期に現れ、しびれや疼痛などさまざまな症状があらわれます。また自覚症状がないまま進行し、進行した神経障害から足底の変形や難治性潰瘍など思いもよらないことが起こることがあります。

したがって、早期発見と早期治療が重要となるため、下記に示すような症状がある場合はすぐに医師に相談してください。

- ・ 何か手や足の先がしびれたり、ジンジンしたり、ピリピリした感じがある。
- ・ 手足が冷えるとか、ほてる感じがある。
- ・ こむらがえりが起こる。
- ・ 歩いているとき、痛みやジンジンする感じがひどくなる。
- ・ 寝ているとき、針でさされるような痛みがはしる。
- ・ 人に触れられたり、ふとんが触れてもいやな痛みが起こる。
- ・ 症状は夜間ひどくなる、または夜眠れないほどひどい。

このような症状を改善する薬としてアルドース還元酵素阻害剤（**キネダック**）と呼ばれるものがあります。この薬は神経障害が起こる原因のひとつである細胞内へのソルビトールの蓄積をおさえます。またこの薬は血糖が高い状態でより効果を発揮するので、**食前**に服用してください。

わからないこと、気になることなどがありましたら、お気軽に医師、薬剤師に声をかけてください。

